

【Power Automate】OneNote に日付・曜日で1か月分のページを自動作成してみた

OneNote で毎朝の連絡を行う職場が増えてきました。
セクションを月、ページを日のタイトルにしています。



年間計画表、予定表、学校であれば職朝連絡といったところです。
ただ毎月この31ページを作成するのが大変だということで。
Power Automate による1か月分のページの自動作成をやってみました。

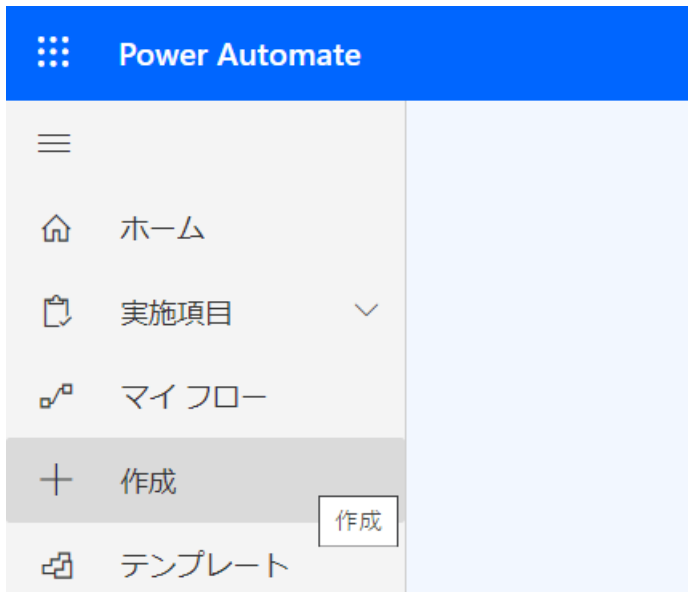
■前提・準備

- Office 365 Business プランを利用。
- OneNote で年間計画表という名前で作成しておく。
- 4月という名前のセクションを作成しておく。

※これは記事作成時点の情報です。

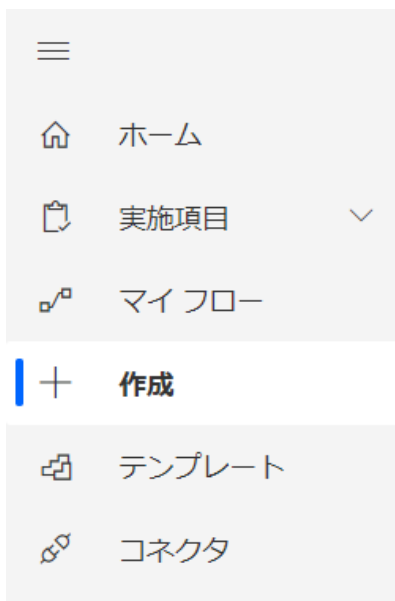
※これは筆者がやったみた記録であり、同じ方法を推奨しているわけではありません。

① 作成




作成を選びます。

② フローの作成



フローを作成するための 3 つの方法

一から開始 ⓘ



自動化したクラウドフロー
指定されたイベントによってトリガーされます。



インスタントクラウドフロー
必要に応じて手動でトリガーされます。

インスタントクラウドフローを選びます。

③ フロー名

インスタント クラウド フローを構築する



デバイスから手動でトリガーされると、簡単に共有できるインスタントフローによりタスクが自動化されるため、操作を繰り返す必要がなくなります。

例:

- VIP クライアントから電子メールを受信するたびに自動モバイル通知を取得する
- すべての電子メールの添付ファイルをフォルダーに自動的に保存する

フロー名

OneNoteに日付・曜日で自動作成

このフローをトリガーする方法を選択します *

- 手動でフローをトリガーします
モバイルの Flow ボタン ①
- PowerApps
PowerApps ①
- Power Virtual Agents がフローを呼び出...
Power Virtual Agents ①
- ビジネス プロセス フローからフロー ステップ...
Microsoft Dataverse ①
- 作成ボックスから (V2)
Microsoft Teams ①
- 選択したメッセージに対して
Microsoft Teams ①
- 誰かがアダプティブ カードに応答した場合 ①

スキップ

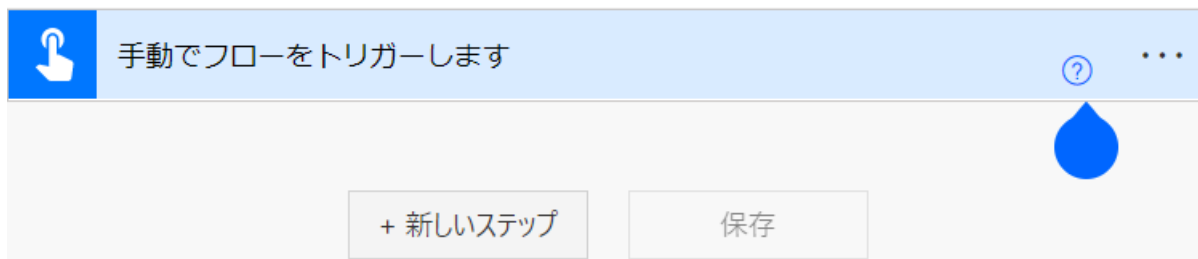
作成

キャンセル

フロー名（例：OneNote に日付・曜日で自動作成）を入力します。

トリガーする方法は「手動でフローをトリガーします」。

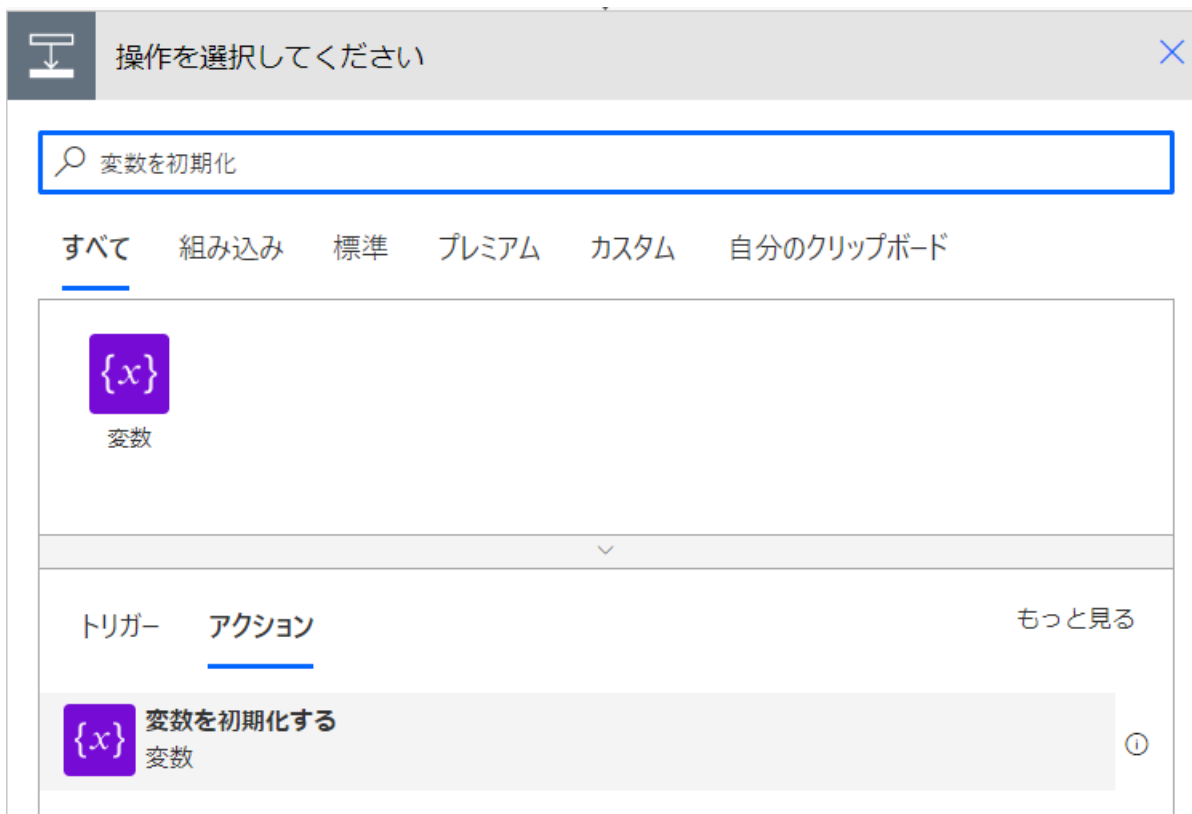
④ フローの作成



フローの作成画面になりました。

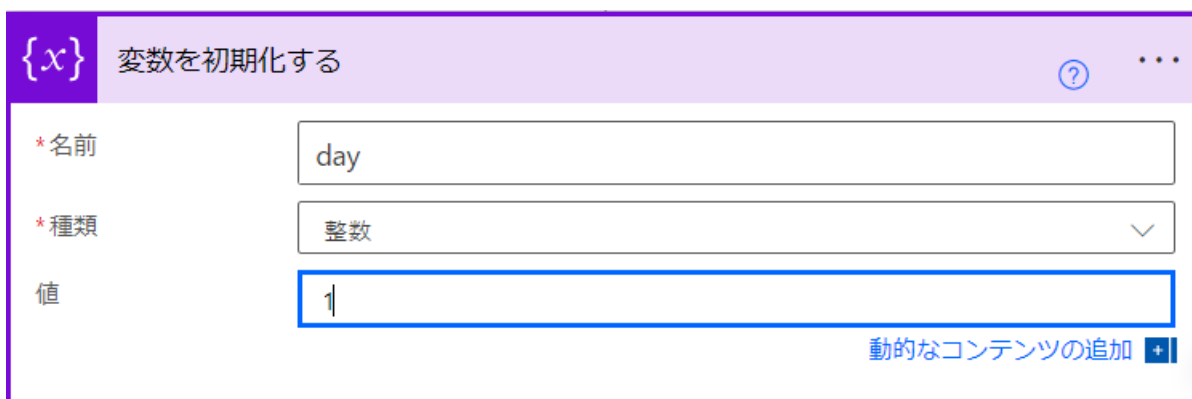
「新しいステップ」でフローを追加します。

⑤ 変数を初期化するアクションを追加する



検索欄に「変数を初期化」と入力すると、下部のアクション一覧に表示されます。
「変数を初期化する」を選択します。

⑥ 初期化の内容を入力する

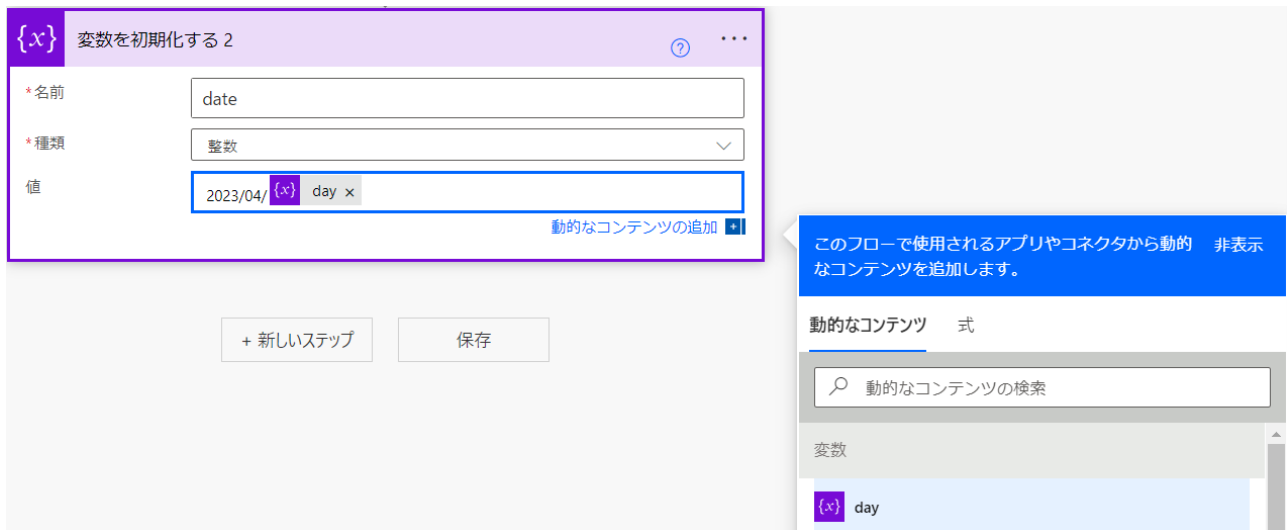


名前：day（日、1日のこと）

種類：整数

値：1

⑦ 変数 date を追加する



同様の手順で変数を追加します。

名前：date（何月何日の日づけのこと）

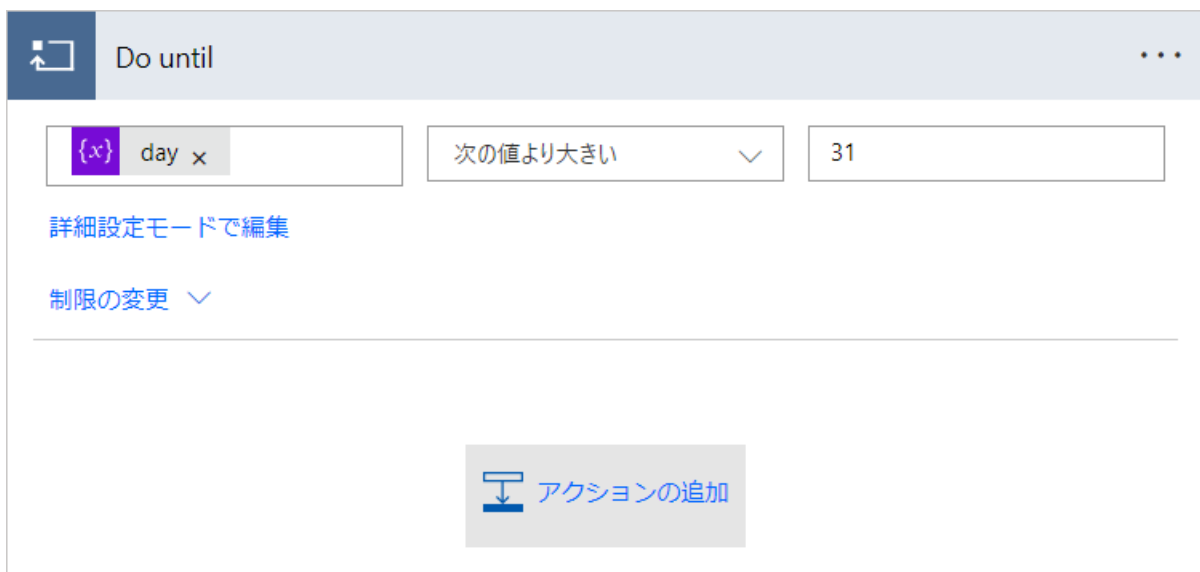
種類：整数

値：2023/04/ {x} day

何月何日の何日の部分には先ほどの変数 day をあてはめます。

右のメニューから「動的なコンテンツ > {x} day 」を選びます。

⑧ Do until アクションを追加する。



今度変数ではなく Do until の繰り返しのためのアクションを追加します。

左の値には {x} day を選びます。

これにより {x} day が最初の 1 から 31 になるまで作業を繰り返す設定になります。

続いて繰り返す内容を追加していきます。

⑨ 変数の設定アクションを追加する

Do until

{x} day x 次の値より大きい 31

[詳細設定モードで編集](#)

[制限の変更](#)

{x} 変数の設定

*名前 date

*値 2023/04/ {x} day x

[アクションの追加](#)

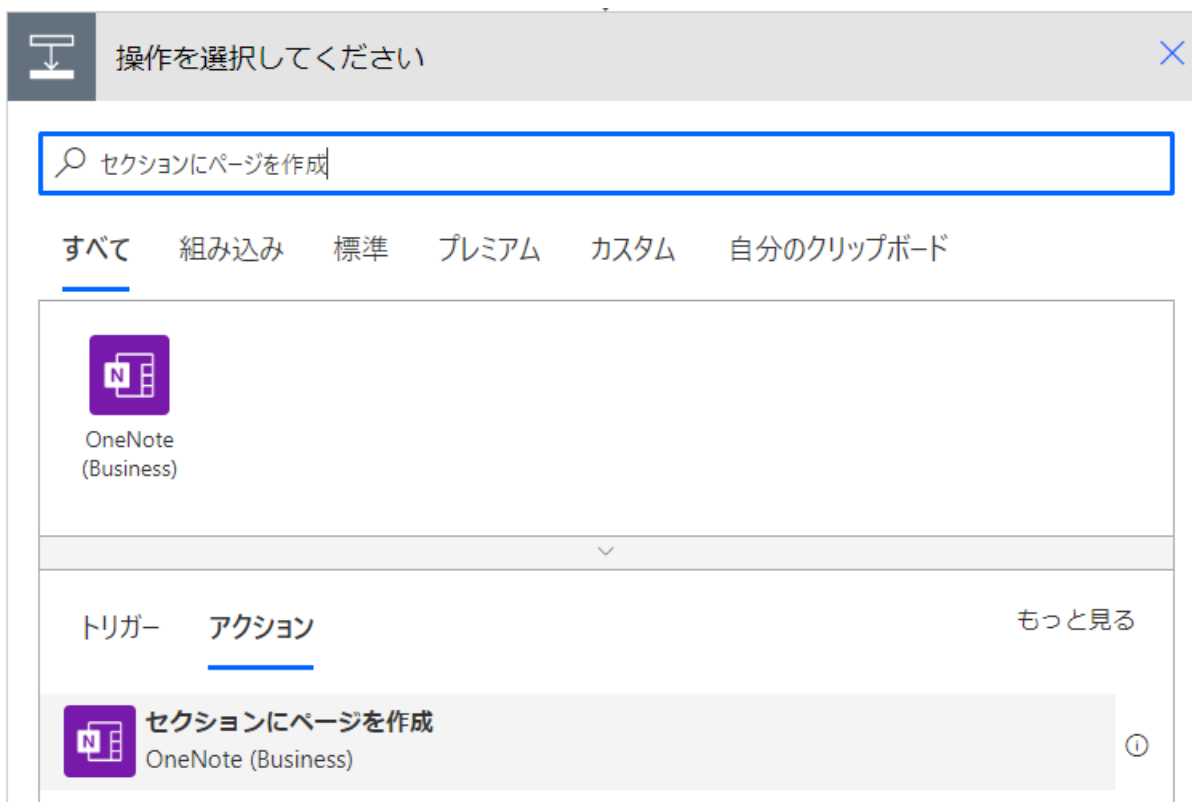
アクションを追加するのは Do until 内であることを確認します。

名前：date

値：2023/04/ {x} day

これにより 1 から 31 まで数字が変わるたび、日の部分にその数字が入ります。

⑩ セクションにページ作成アクションを追加する

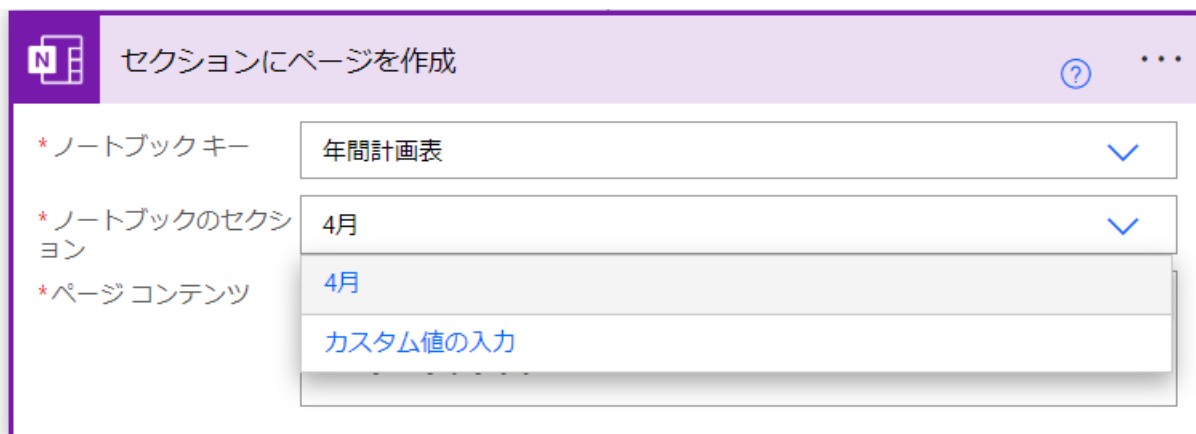


追加するのは引き続き Do until 内であることを確認します。

検索欄に「セクションにページを作成」と入力すると、下部のアクション一覧に表示されます。

セクションにページ作成アクションを追加します。

⑪ OneNote を指定する



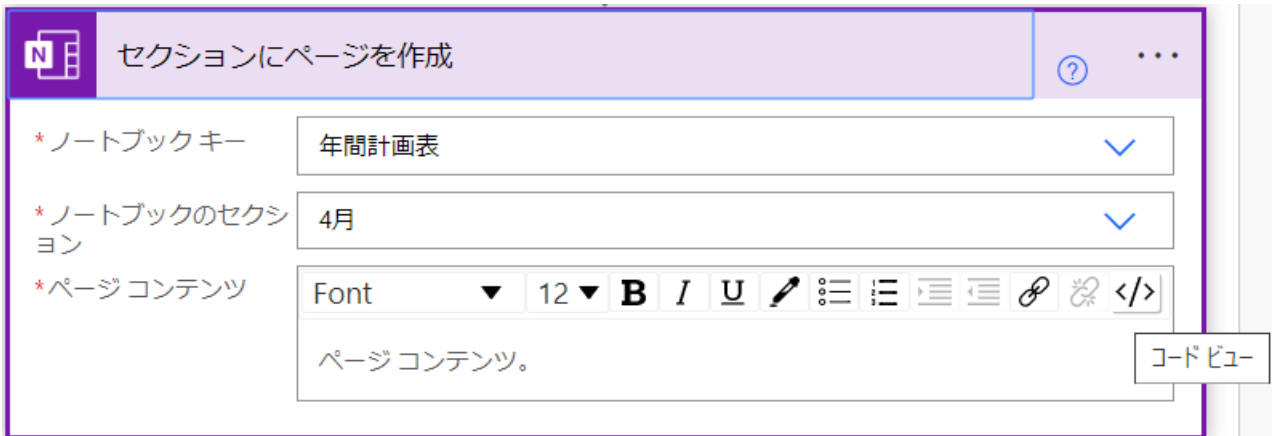
アクションの追加

自分が所有している OneNote を選ぶことができます。

ノートブックキー：年間計画表（自分の OneNote）

ノートブックのセクション：4月

⑫ ページコンテンツではコードビューに変更



ノートブックキーとセクションを指定後。
ページコンテンツについては、右端のコードビューのアイコンを押します。

⑬ ページコンテンツに HTML を記述。何日の部分。



ページコンテンツには以下をコピー＆ペーストします。

.....

```
<html lang="ja-JP">
  <head>
    <title> 日 ( ) </title>
    <meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=utf-8" />
    <meta name="created" content="2023-04-01T12:00:00.0000000" />
  </head>
```



```
</head>
<body data-absolute-enabled="true" style="font-family:Yu Gothic;font-size:11pt" />
</html>
```

.....

また、何日（曜日）の何日にあたる

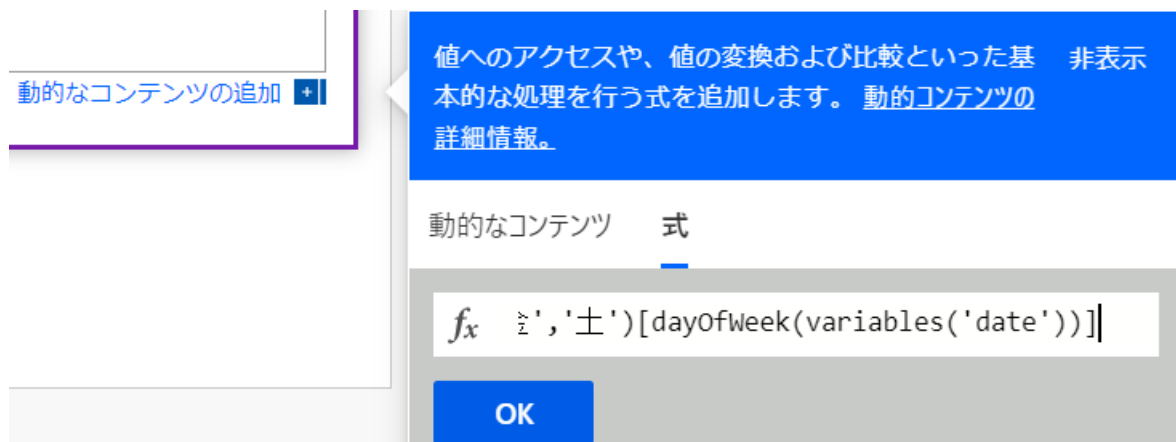
```
<title>何日（ ）</title>
```

部分には変数 day をあてはめます。

右のメニューから「動的なコンテンツ > (x)day 」を選びます。

⑭ 曜日の部分

続いて曜日の説明です。



何日（曜日）の曜日にあたる

```
<title>(x)day 日（ ）</title>
```

部分には動的コンテンツではなく「式」をあてはめます。

式を選んだ後、以下の内容をコピー&ペーストしてください。

.....

```
createArray('日','月','火','水','木','金','土')[dayOfWeek(variables('date'))]
```

.....

⑮ 何日・曜日の確認



セクションにページを作成



* ノートブックキー

年間計画表



* ノートブックのセクション

4月



* ページコンテンツ

</>

```
<html lang="ja-JP">
```

```
  <head>
```

```
    <title> {x} day x 日 ( {fx} createArray(...) x ) </title>
```

```
    <meta http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=utf-8" />
```

```
    <meta name="created" content="2023-04-01T12:00:00.0000000" />
```

```
  </head>
```

```
  <body data-absolute-enabled="true" style="font-family:Yu Gothic;font-size:11pt" />
```

```
</html>
```

動的なコンテンツの追加



アクションの追加

何日の部分には {x} day

曜日の部分には createArray(..)が入っています。

⑩ 変数の値を増やす

Do until

{x} day x 次の値より大きい 31

[詳細設定モードで編集](#)

[制限の変更](#) ▾

{x} 変数の設定

↓

N セクションにページを作成

↓

{x} 変数の値を増やす

*名前 day

値 1

[アクションの追加](#)

最後に変数の値を増やすアクションを追加します。

名前：day

値：1

これにより Do until 内で day に毎回 1 を足しながら作業を繰り返すようになります。

⑰ テスト

フローのテスト



手動

自動

テスト

キャンセル

保存をすると、メニュー右上のテストから実行することができます。

手動を選んでテスト→続行。

「フローの実行」により実際の動作がはじまります。以上です。